



上手に歯みがき できるかな？

監修：倉治 ななえ（クラジ歯科医院院長・歯学博士）

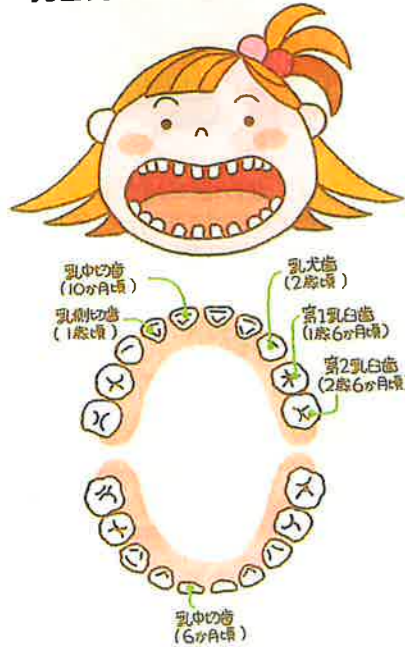
3歳頃のお子様の保護者の方へ

3歳頃になると、個人差はありますが乳歯がほぼ生えそろういます。食べ物をかむための筋肉が発達して大人が食べるのと同じようにかたさや弾力のある物が食べられるようになり、食の幅が広がります。それだけに、歯垢などの汚れが歯に残りやすくなり、むし歯になりやすい時期でもあります。子ども自身にもむし歯を予防する意識をもたせるため、自分で歯みがきをする習慣をつけ始めるとともに、保護者の仕上げみがきでしっかりケアしてあげましょう。

※歯垢：むし歯菌のかたまりで、むし歯の原因となる。

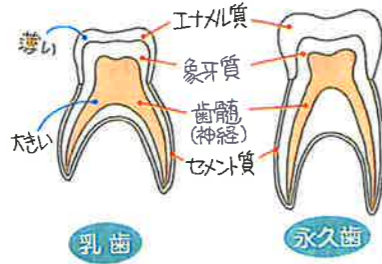
3歳頃

乳歯列が生えそろう（20本）



乳歯はむし歯になりやすい！

永久歯に比べて乳歯は、歯に栄養や血液を供給する役割を果たしている「歯髄（神経）」が大きく、「エナメル質」が薄いという特徴があります。それだけに、いったんむし歯になってしまうと、短時間でむし歯菌が歯髄に達してしまうのです。



写真提供：クラジ歯科医院



奥歯のみぞ、奥歯と奥歯の間にできたむし歯です。この段階になってしまうと、削って治療するのはもちろん、神経を取る可能性もあります。

乳児のむし歯の特徴

- むし歯の進行が早い
- 歯と歯のすき間の見えにくいところで大きくなる
- 広範囲に広がる

乳歯の役割



乳歯のむし歯を放っておくと...

- 乳歯のむし歯が多い
- ↓
- よくかめない
- ↓
- あごが育たない
- ↓
- 永久歯の歯並びが悪くなる
- ↓
- よくみがけない
- ↓
- むし歯が増える！



乳歯はあとから生えてくる永久歯を導く目印であり、スペースを確保する役割もあります。乳歯がむし歯になって早期に抜けてしまうと、将来的にスペースが不足するなどして、永久歯は正しい位置に生えることができなくなってしまいます。

姿勢と歯並びの深い関係



足がブラブラした状態で食事をすると、かむ力（咬合力）や咬合面積が低下して、あごの骨が十分に发育せず、歯並びが悪くなります。踏み台などを使うことで、かむ力がアップして、あごの骨の发育に期待できます。また、食事中にテレビを観るために顔だけを横に向けて食べる習慣なども、あごの发育に支障をきたします。ご注意ください。

守ろう！ むし歯予防の3つの習慣 「歯みがき」「食生活」「歯科健診」

1 乳歯をむし歯にしない歯みがきのコツ

食事のあとには、子どもに自分みがき用の歯ブラシを持たせ、歯みがきする習慣をつけましょう。そのあと、保護者が仕上げみがきをしてしっかりケアします。寝る前の仕上げみがきは、特に大切です。仕上げみがきは、小学校2年生くらいまでは必要です。

むし歯予防の決め手は
仕上げみがき！

今から子どもに 自分みがきの習慣を

- 保護者が使う仕上げみがき用の歯ブラシとは別に、自分みがき用の歯ブラシを用意してあげましょう。
- 将来、自分で歯みがきの習慣が身につくように、子どもに正しい歯みがきの仕方を教えてあげましょう。
- 明るい部屋で歯ブラシと手鏡を持たせて、保護者が見守って行いましょう。



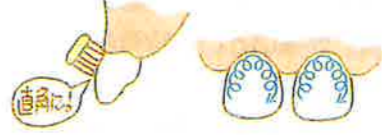
歯ブラシの持ち方

鉛筆を持つような「ペングリップ法」で歯ブラシをにぎります。



歯ブラシの動かし方

歯ブラシを歯の表面に直角にあてます。歯と歯ぐきの境目はらせんを描きながらコチョコチョとみがきます。



仕上げみがきの姿勢

ひざを少し広げて正座し、子どもを仰向けの姿勢で寝かせます。

奥歯のみがき方のポイント

奥歯はかむ面のみぞが深く、複雑な形をしているので歯垢がたまりやすく、むし歯になりやすい部位です。また、歯と歯ぐきの境目、歯と歯の間、上の第2乳臼歯のど側などにみがき残しが多く見られます。子ども用の糸付きようじを使って歯と歯の間の歯垢を取ってあげましょう。糸付きようじは、歯ぐきにあたるまで入れないようにご注意ください。

歯垢が残りやすい部位



2 正しい食生活を！

- 1日3食、規則正しく食べよう。
- 栄養バランスのよい食事を心掛けよう。
- よくかんで食べる習慣を身につけさせよう。
- おやつには季節の野菜や果物をとろう。
- 飲み物は水や麦茶などの糖分を含まないものを与えよう。ジュースやイオン飲料などの与え過ぎは要注意。
- 食べたあとには、キシリトール食品を使う習慣を。



噛ミング30（ガミングサンマル）を目指そう

厚生労働省では、食べ物を口に入れたら30回以上かむことを目標にした「噛ミング30」を提唱しています。28本の永久歯が美しく並ぶには、あごを大きく育てる必要があります。あごの唯一の運動が「かむ」ことなので、ひと口食べたら、左右の歯でそれぞれ10回、両方で10回かむとよいでしょう。毎日の食事にかみ応えのある野菜、特に根菜類、魚介類、乾物などをとり入れた食事を食べさせると、かむ回数が自然に増えます。

3 定期的に歯科健診を！

かかりつけの小児歯科医を決めて、年に2回程度は歯科健診を受けるようにしましょう。歯科健診では、むし歯の有無以外にも、歯みがきの仕方や食事指導など、その子どもの歯の状態にあったきめ細かいアドバイスを受けることができます。

また、身近にいる保護者なども定期的に歯科健診を受け、むし歯予防に努めましょう。

フッ素でむし歯予防

フッ素（フッ化物）が歯にとり込まれると、エナメル質が強くなって、むし歯菌の出す酸に負けない歯になります。歯医者さんにフッ素を塗ってもらったり、フッ素入りの歯みがき剤を使うことで、むし歯予防効果が高まります。

